

【研究論文・実践報告】

～「新設教育特区高校のまちづくり」途中報告～

会員 NO: 182 一色真司 (三重県志摩市阿児町)

■プロジェクトスタートの背景

私たちは、Alternative School (※) の運営を通して、たくさんの子どもと、そのご家族と接してきました。そのなかには、不登校や高校中退といった「緊急避難」として訪れる方も決して少なくはありませんでした。

そして、様々な思いを胸に入学してきた生徒ばかりでした。

※ オルタナティブスクール：黒柳徹子さん著作のベストセラー『窓際のトットちゃん』作品中に登場するような学園で、『もうひとつの学校』という意味ですが、無認可の学校のことです。

入学してきた子どもたちは、何らかの理由で学校へ行きたくても行けなかった、もしくは行きたくなかった、『学校に居場所を見いだせなかった生徒たち』でした。

そこで私たちは、とにかく「全てを一度受容する」ことから始め、その結果、ほぼ全ての生徒たちが「学校」を欲し「先生」を欲していることがわかりました。



また、遊ぶ仲間はいても「本当の友だちが欲しい」と言って入学してきた生徒もいましたが、お互いのことを理解し合え、信頼できる友だちが見つかるだけで、見違えるように変わって行く姿を目の当たりにしました。

本当の自分を見失い、または、自己主張できないままで「もがいていた」時が嘘のように遅しくなり、自信に満ちた表情に変化していきました。

一方、保護者の方たちとの交流では、「本音でお付き合いしましょう」といくら言っても無意識にきれいごとを言ってしまう『大人』が多くいました。

その解決策として、今では年度始めの保護者会から、プログラム上では「茶話会」とはなっていますが、お酒も出すようになりました。

それまでは年度の終わりくらいになって、ようやく本音が出始める状況だったのですが、この「茶話会」を始めたことにより、年初から突っ込んだお話が出来るようになりました。

この他、分科会では在校生の保護者の方から『どろどろの経験』を交えた自己紹介を最初に行ってもらい、それに続き全員が自己紹介を行い、ディスカッションをします。

この繰り返しを何度も行い、お酒の会も年四回行われるようになりました。

こうした、既存学校に居場所を見いだせなかった生徒、および保護者の方々との交流を通して、現代社会においては、いかに本音のお付き合いが出来る環境が希薄になっているのかに、改めて気づかされました。

そんななか、幸いにも「構造改革特区制度」という新しい制度により、学校認可を2005年に三重県志摩市において「広域通信制高校」として認可されました。

しかも本校舎は、伊勢志摩国立公園という絶好のロケーションの中心に位置する「賢島」の高台にある旧ホテルだったのです。

東京においては、校舎を含めた場所もさることながら、地元自治体との連携が無認可校には非常に難しく、思ったような地域活動は出来ませんでした。

ところが、志摩市は非常に魅力的で資源に富んだ地域であるにもかかわらず、以前に比べ人口も減少し、経済的に停滞していたためか、「よそ者」の意見をよく聞いて頂ける状態にありましたので、かねてより考えていた「子どもが育つ環境づくり」を実施することにしました。



■プロジェクト概要

代々木高校は、2004年10月に志摩郡5町が合併して誕生した人口約6万人の志摩市から2005年2月に伊勢志摩インターネット高校特区の高校として認可を頂きました。

この認可は、志摩市阿児町が地理的条件から海外からの「光海底ケーブルの陸揚げ基地」になっているという土地柄、観光が下火になり「空きホテル」の有効活用を考えていた自治体の悩みが、「学校施設」を中心に「子どもたちの育ち環境」創りを模索していた代々木高校の思いと合致して、成立いたしました。

認可され、はじめに考えたことが、せっかく素敵なホテルを利用できるのだから、年齢の異なる『子どもたち』と様々な『大人たち』と一緒に活動できる「ミニ社会」を構築してみようということでした。



なぜなら、多様な人々の交流の場には必ず「気づき」があり、それまでは忘れ去られていた本来あるべき人とのふれ合い、その重要性を再確認させてくれるからです。

この交流の場こそが、私がずっと求めていた子どもたちの「育ち環境」なのです。

子どもたちは決してカウンセリングで元気になるわけではありません。

生活の中で気がつけば、元気で図太くなっているのが自然の姿なのではないでしょうか。

現在、活動し始めたプロジェクトは以下の三つです。

1. 子育て支援関連の行政・NPO団体のプラットフォームである「志摩子どもランド」
2. 地域の資源を改めて掘り起こし、研究・発信するための「賢島大学」
3. これらを含めた活動をインキュベートする「伊勢志摩ビジネスファクトリー」

これらを総称して、「伊勢志摩元気プロジェクト」と呼んでします。

1. 「志摩子どもランド」

志摩市阿児町の「子育て支援室」と志摩市の親子サークル事業「ほっとひろば」の二つが2006年12月移転して来たのを皮切りに、●「キッズクラブ・ジャングルジム」●「キッズ with キッチン」●「とっぴんぱらりのふう」●「ツインズ」●「こつぶっち」●「フリースクールよよこ〜」、そして「代々木高校」などが一つの大きな子ども支援NPOプラットフォームとして活動していく予定です。

0歳児から未成年者の「子ども」と各活動を支える「大人」、全世代が交流する状況が出来上がり、子ども同士でも異年齢間の遊びが生まれてきます。

また、各団体の経営資源の統合により、効率化を進め、延長学童、学習学童、延長託児などを併設して行きたいと考えています。

2. 「賢島大学」

楽しく、生き活きとして生きている大人が沢山いる環境では、子どもも必然的に生き活きしてきます。

志摩市には素晴らしい、自然、産業、歴史などがたくさんまだまだ眠っています。



地域の魅力を市民の手で発掘・再発見し全国、世界に向かって発信していこう、という趣旨で、市民立の産官学民協働プロジェクトです。

2007年7月からスタートしましたが、真珠発祥の地である英虞湾の歴史や産業は調べれば調べるだけ飽きることがありません。

また、環境問題では、自分たちの生活を通し、素晴らしい自然との関わりを改めて見つめ直すなど、身近な題材から掘り下げて、幅広い年代の方々が参加し、徐々に参加する人から運営する人へと、輪が広がっています。



3. 「伊勢志摩ビジネスファクトリー」

志摩市および近隣に一般的大学が無く、大学進学と同時に自宅を出てしまい、そのまま戻って来ないケースがこの地でも多く見られます。

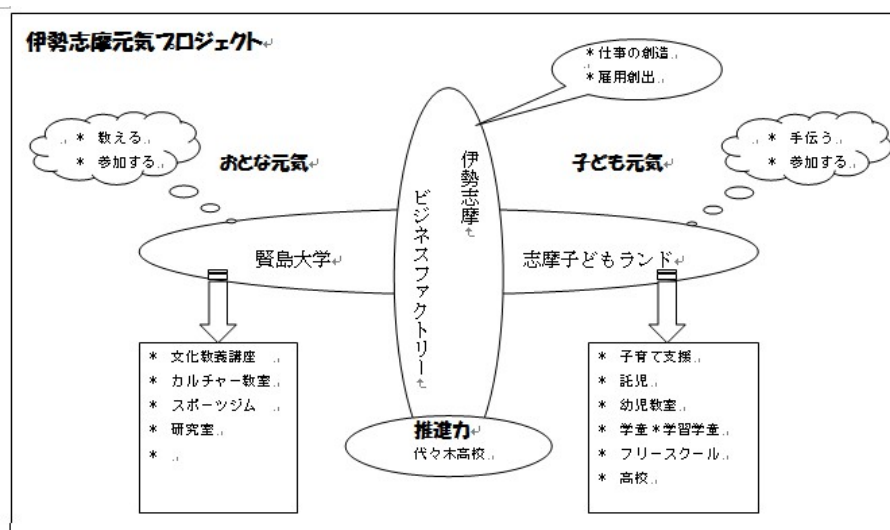
しかし、話を聞いていくと都会がいいと言うよりも、就職先が無くて戻って来られないと言った若者が意外に多くいることに気づきました。

自営業で戻ってきたリーダー的な若者も少しずつ増え、地域発信でビジネスをやりたい、と言う気持ちを持った若者もいます。

この若い力を結集させて、様々なプロジェクトから上がってくる情報や人材を結びつけ、『新たな雇用の創出』ができればいいなと考えています。

まさに、『社会起業家』を活動を通して育成していく、ということです。

「伊勢志摩元気プロジェクト」イメージ



私たちは、こうした環境づくりを意識して、「プロジェクト」として多くの人々を巻き込み、創っていこうと思っています。

しかし、潜在的にこうした活動を欲している人は、実は全国各地にももの凄い数にいるのではないかと思います。

それは、この地に限らず、どの地域に出かけても「プロジェクト」のお話をすると身を乗り出して聞いてくる方がたくさんいるからです。現に、この志摩市でも「面白いよそ者がきた」という感じで、一緒に「プロジェクト」を盛り上げてくれています。

現在、伊勢志摩元気プロジェクトでは、『楽しく、そして得もしましょう!』、でも『当面はそう思える人だけ参加してください』と言って、多くの方に夢を持ってもらい、プロジェクトの輪を広げています。

「伊勢志摩インターネット高校特区」イメージ

